



ペンギン会議
全国大会で発表

守屋 真聖さん 9歳
荒牧小

もっと知りたいんだペンギンのこと

1月27日に開催された、ペンギン研究者や水族館などの飼育員が全国から集まるペンギン会議全国大会に史上最年少で参加。これまで行ってきた数々の研究成果を発表し、会場中から称賛を浴びた。「大勢の人の前で発表できてうれしかったです。緊張しましたが、大きな声ではっきりと言えたのでよかったです」とペンギンに興味を持ったのは3歳ごろ。両親と水族館へ行ったとき、持っていたペンギンのぬいぐるみに水槽の中のペンギンが近づいてきたことがきっかけだ。それから興味が深まり、何度も水族館や動物園に足を運んだ。昨年夏には、「ペンギンは目がいい」ということに着目。「フンボルトペンギンは3Dが好き? 2Dが好き?」をテーマに、ペンギンに絵

やぬいぐるみを見せて反応を見る実験を行った。「実験の結果、反応に個体差があつてペンギンにも個性があることが分かりました。今後は好きな色や鏡を見せたときの反応が知りたいので、実験を続けていきたいです」荒牧小3年生で算数と理科が大好き。趣味は絵を描くことで、好きな題材はやはりペンギンだ。将来の夢は、会議に推薦してくれたペンギン会議研究員の上田一生さんのようになることだという。「もっと研究してペンギン博士になりたいです。南極にも一度行ってみたい」と笑顔で語ってくれた。近い将来、日本のペンギン研究が、彼の手によって大きく進むに違いない。

未来の贈りもの
本市収蔵作品

深谷徹
『とりかごのある静物』昭和27年
油彩・カンバス
(131.0センチ×130.5センチ)

鳥かご、アジサイの花、貝殻、カンヴァスの架かったイーゼルなど、画家のアトリエ内が描かれています。部屋の主は、洋画家・深谷徹（大正2年〜平成4年）さんです。この作品は、初期の代表作で日展特選・朝倉賞を受賞しました。やや重い色調で絵の具がパレットナイフで塗り込められています。海外ではスペインのトレドの風景、国



内では越後中里や水上あたりの雪景などに取り組み、風景画家として活躍した深谷さん。本作品を出品したときは、他に人物画も出品していました。もしもそちらが選ばれていれば、人物画家になっていたかも知れません。

深谷さんは勢多郡木瀬村（現・野中町）に生まれ、中村不折の絵を購入する父の影響を受け、幼少より絵に興味がありました。群馬師範学校卒業後、県内で教員となりますが、昭和14年に上京し、都内で教員の傍ら、創作活動を続けました。翌年文展に初入選したのを機に教員を辞めて、画家への道を決意しました。

戦後、本作品の受賞がきっかけとなり、40歳で初めて渡欧。フランスとスペインで学びます。特にスペインは計14回訪れており、深谷さんの「第二の故郷」。トレドの連作をはじめ、スペインの風景を明るい色彩で描きました。

その間、日展では審査員を務め評議員に、創元会では幹部として後進の指導に当たり、本県の美術振興に貢献しました。

問い合わせは 文化国際課 ☎2300-1144



障害児者たちのステージ発表

障害児者によるステージ発表会「みんなのフェスタ」を、1月26日に総合福祉会館で開催しました。和太鼓の演奏や合唱、ダンス、バンドなど、盛りだくさんのプログラム。息の合った発表の数々に、大勢の観客から盛大な拍手が送られていました。



素晴らしいダンスで観客を魅了

1月27日、市民文化会館で前橋高崎連携事業の前橋高崎市民ダンスコンテストを開催しました。さまざまなジャンルの49チームが、ステージで最高のパフォーマンスを披露。躍動感あふれる踊りは観客を魅了し、両市民の交流が一層深まりました。



市民の力作ずらりと並ぶ

1月31日から市民文化会館で市民展覧会を開催中です。これは市民が日頃から取り組んでいる芸術活動の成果を披露するもので、美術・写真・書道の3部門合計1,324点を展示。来場者は足を止めて熱心に見入っていました。会期は2月17日までです。

能と声明による儼かな共演

1月26日、前橋プラザ元氣21で「能と声明」を開催。仏教の音楽「声明」や、能が披露されました。中でも源平合戦のエピソードを取り上げた能「経正」の舞は、会場で魅了。訪れた人たちは、儼かな世界を堪能していました。

